



### 目次

講演 東京の日本語教育の今とこれから 神吉宇一.....1	世界の国から 「私の黄金の国ミャンマー」 ティティルイン.....6
世界のニュースから 「KYODO NEWS」.....2	Nice to Meet You 「日本語教室エコー」「豊洲にほんごサークル」.....7
Web検索 「ボランティア日本語教室ガイド」昨年度集計と問合せ.....3	Information 第30回定期総会報告.....8
紙上講座 日本語教師が持った「窓」 金子広幸.....4,5	コラム 「ふりかえれば」 小川伶子.....8



TNVN  
ホームページ  
QRコード

# 講演 「東京の日本語教育の今とこれから」

5月21日のTNVN第30回定期総会に先立ち、武蔵野大学 神吉宇一教授(グローバル学部日本語コミュニケーション学科)による講演会が開催された(参加者47名)。神吉教授は言語教育政策が専門。

冒頭、「国の文化審議会で、地域の日本語教育のことが議論されているか」という事前質問に対して、「地域の日本語教育の議論が中心的な課題として議論されている」ことが紹介された。次に「教師の国家資格」に言及。地域の日本語教育では今のところ国家資格は不要だが、国家資格と機関認定をセットにして日本語学校の適正化を図っていくとのこと。

### 以下、講演概要：

#### I 日本語教育に関する国の政策

日本の入国管理政策が変化した。外国人受け入れに関する政策は、入国管理政策と社会統合政策を両輪で進める必要があるが、日本では長く後者に手をつけていなかった。2022年に外国人との共生社会実現に向けたロードマップを打ち出し、移民政策に繋げていこうとしている意図が見える。

考えるべきは地域における共生で、そのためには日本語教育と、外国人住民とのネットワーク作りや外国人住民をサポートする仕組み作りが必須。

#### II 東京都の特徴と方向性

東京には60万人の外国人が在留。1つ目の特徴は技能実習が少なく、永住者、技術・人文知識・国際業務、留学

などが多いこと。2つ目の特徴は区部に85%が在留していること。3つ目の特徴は日本語教育を行う機関・団体が多いこと。

都の取り組み1つ目は、地域日本語教室は地域全体で学校や社会福祉協議会とも連携して進める。2つ目は、地域日本語教育は、行政が日本語レベルのボトムのあたりからCEFRのB1(自立した話者レベル)までを保障し、上に行くに従って公的・私的な各種団体等が担っていく構造に。3つ目は地域住民と学習者の関係づくり。それにはやさしい日本語によるコミュニケーションが不可欠。

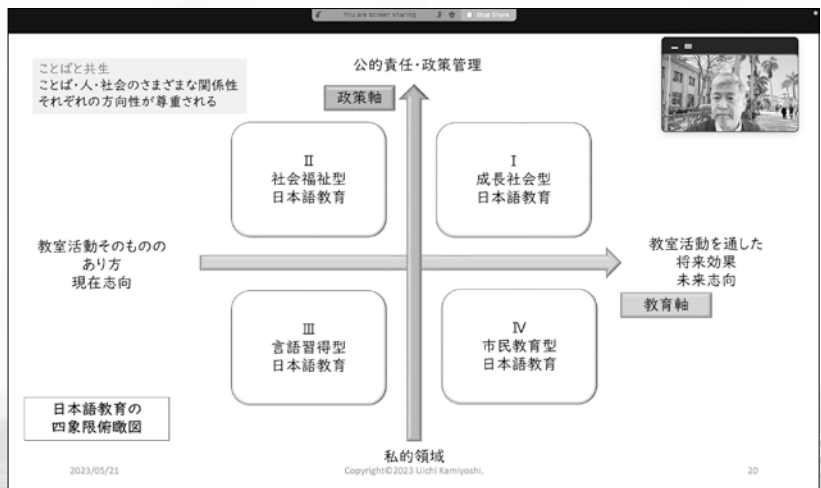
#### III 地域日本語教育をどう捉えるか

日本語教育のあり方を考えると、1 成長社会型・2 社会福祉型(居場所作り)・3 言語習得型・4 市民教育型(学習者も主体的に)の4つに分類できる。前者2つは政策として取り上げるべきもので、地域の日本語教育が担うのは

2と4。2は行政が主体的に参加し作っていくのに対して、4は住民活動としてあえて公的な縛りから離れて進めていくもの。

#### IV 今後の課題

地域の日本語教育には日本語の専門家(地域日本語コーディネーターと地域日本語教師)の配置が必要。これに学習支援者も加えた三者が一緒に地域の日本語教育を作っていく。学習支援者に求められるのは、1 学習者と共感的に対話ができる、2 やさしい日本語で話し、相手の話を聞く傾聴力がある、3 地域ネットワークに外国人を巻き込んでいくことができること。地域の日本語教室に地域の人が出て、外国人が学んだ日本語を使って日本人と繋がりを作っていくことは住民が力を発揮する分野。地域の支援者から日本語教師になる可能性もあり、この地域日本語教師が授業を担うことで、支援者の負担軽減に繋がっていくだろう。



# 「Volunteers taking outsized role in Japanese language support」

By Peter Masheter

※昨年末、マシターさんの1時間半にわたる取材を受けました。今年になって、世界のニュースからその記事を見つけましたので、筆者の快諾を得て、その一部の和訳をご紹介します。TNVN代表 林川玲子

毎週、日本各地の公民館などの公的施設では、何千人ものボランティアが低価格な「日本語教室」で外国人居住者に対する支援を行っている。これらの日本語教室は、多くの外国人にとって、来日後、日本語学習を始める唯一の場となっているため、日本での生活に順応するための重大な役割を担っている。

コロナ禍で減少した外国人居住者の人口が再び増加傾向にある現在、来日間もない外国人にとっては、ライフラインと言っても過言ではない日本語教室の活動を、60代以上のボランティアの善意に頼ることは、果たしていいことであろうか。

日本語教師をしながら、40年以上もボランティア活動してきた、東京日本語ボランティア・ネットワーク代表Hさんは、行政が毎年発表する日本語教育実態調査に掲載されている「日本語教室」という呼び方は何をさしているか疑問だと言う。また、「ボランティアは日本語教師ではありませんから、初心者を対象とした日本語教育支援の責任は自治体に担ってほしいです」と強調する。

一般に言われている「日本語教室」の実態は、語学習得の場というよりも、外国人が地域住民と交流し、日常生活に必要な言い回しの習得などと共に、悩み相談などでもできる場であり、居場所にもなっている。

都内の日本語学習支援活動をコーディネートしている、東京都つながり創生財団のIさんも、これら諸々の活動の生活面における便益を強調する。「これらの支援活動は、日々の買い物や育児の悩みを気軽に相談できる場も提供します。多くの外国人にとって、市役所や自治体に問い合わせをするのは難しいのです。」

2020年に東京都が設立した東京都つながり創生財団は多文化共生社会を築くためのボランティア活動支援を行っている。

文化庁の推定によると、2021年には国内各地1350か所で日本語教室が運営されており、それらの合計23,700人の日本語教師の内18,750人がボランティアであった。

都内だけで300ほどの教室が実質的に活動していると見られており、その多くが無料、または授業1回に

つき100円という安価な価格で提供している。

2019年、政府はこれらの日本語教室の存続を推奨するため法律を制定、それに基づき、文化庁は日本語教室設置を促進するため、各地に日本語教育の専門家を派遣するなどの支援を実施した。しかしながら2021年に至っても、計約178,400人の外国人が居住する全市区町村の46パーセントに相当する市区町村が日本語学習施設を開設していなかった。約2,650人のボランティアを有する東京都でも人手不足に直面している。

区民の5パーセントを外国人居住者が占める東京都足立区で毎週日曜日に開かれている日本語教室グループドメニカ代表のFさん（94歳）は、グループのボランティアの多くが60代以上である中、外国人が増え続けるため、新しいメンバーを募るのに苦戦していると話す。「若者を募集しようと大学などに出向いているのですが、無報酬なのでなかなか難しいです。また、初心者を教える場合、一対一が望ましいのですが、多い時は一対五の時もあります。」この教室の常連、IT関連に勤める中国人Zさん（36歳）は、グループドメニカを非常に貴重な場所だと感じていると語る。「職場の同僚とは日本語で話す機会がほとんどないので、出来るだけ毎回この教室に来るようにしています。」

日本語教師をしながら、茨城県ひたちなか市国際交流協会が四つのボランティア日本語教室を運営するSさんは、教室の活動にボランティアの力を借りることは現状では「免れない」としながらも、ボランティアに実際の語学指導を任せるのは望ましくないと言う。「地域日本語教育コーディネーターや日本語教師がボランティアに寄り添わないといけません。私は理想の日本語教室はボランティアが日本語を教える場所ではなく、日本での生活がどのようなものなのかを伝える場所であると考えています。」また、この活動でメリットを享受するのは学習者だけに限らないと強く語る。「ボランティア日本語教室は、地域コミュニティのためでもあります。特に教師や医者などから、外国人の生徒さんや患者さんと上手くコミュニケーションを取れるか心配なので、もっと日本語教室を開いてほしいとよく言われます。」

(文責 林川)

# 「ボランティア日本語教室ガイド」 昨年度集計と問合せ

東京日本語ボランティアネットワーク（TNVN）のホームページ内の「ボランティア日本語教室ガイド」（以下「教室ガイド」と略）には、日本語をボランティア日本語教室で学びたい人のために、230教室が掲載されています。（2023年4月現在）。TNVNのホームページの中で一番多く閲覧されている頁です。

## ■「教室ガイド」の内容のご案内

掲載教室の地域別内訳は、区部158教室、市部70教室、その他2教室です。

そのうち、TNVN会員（団体）の教室は、区部77教室、市部36教室、合計113教室です。

約半数が非会員団体ですが、これらの団体は、都の助成金で作成した教室ガイド（冊子）2018年版調査票で、ホームページ掲載を希望した団体です。学習希望者への情報として、掲載しています。

また、TNVNでは2021年度事業で、ホームページをスマートフォンやタブレットでも見やすいようにリニューアルしました。（訪問者のデバイスの約6割が、タブレット・モバイルです）

特に外国人の人に便利ように 使用言語は現在20か国語から選択できます。

## ■リニューアル後一年間（2022年5月～2023年4月）の状況

サイトへのアクセス（訪問者）は、国内からが圧倒的に多いですが、中国、アメリカ等海外からも検索されています。

国内の地域別訪問者は、渋谷区、世田谷区、新宿区、港区、江東区からのアクセスが多いです。

これは、東京都内で外国人人口が多い区（千代田区、中央区、港区、新宿区、台東区、墨田区、江東区、・・・）と、必ずしも重なりません。  
（外国人人口の統計 [1] <https://www.toukei.metro.tokyo.lg.jp/gaikoku/ga-index.htm>）

## ■ボランティア日本語教室を探している人からの「お問い合わせ」

来日外国人増加に伴い、都、区、市のホームページで、日本語教室一覧が掲載されている所もあります。TNVN教室ガイドでは、教室を探している人が、直接、希望地域の教室を検索し、その教室に「お問い合わせ」メールを送信し、詳細を尋ねることができます。

直接の問合せが多い教室所在地域は、新宿区、港区、江東区、墨田区、杉並区等で、市部では八王子市、小平市、町田市等です。→図

年間の問合せ総計は1652件、月平均138件あります。月別では特に4月と10月が多く、11月7月5月と続きます。仕事や学校環境に変化のある時期のためと思われる。

## ■各教室直送メールとTNVNへのメール

各教室には、学習希望者から直接メールが届き、直接回答メールを返信できます。

けれども、東京の地理や、路線がわからない学習希望者が、目的の教室を見つけられない時にはTNVNの問合せ先（webadmin@tnvn.jp）にメールが届き、TNVNスタッフが対応します。

TNVNへの問合せ内容で多いのは、TNVNも日本語教室だと思い、教室情報を訊かれることです。

それで、回答のはじめに、「TNVNは都内で活動するボランティア日本語教室のネットワークです。教室活動はしていません。」と書くようにしています。

- ・国外からの問合せには、東京に居住が定まってから、再度問合せくださいと伝えます。
- ・最近増えた中国語の問合せには、オンライン上の無料翻訳ソフトを活用し、回答しています。
- ・外国ルーツの子どもの教室を探す問合せも、時々あります。

## ■これからも

TNVN「教室ガイド」は常に最新の情報を届けたいと思っています。教室の情報－活動日・時間、活動場所、連絡先などの変更や追加はいつでもTNVN（webadmin@tnvn.jp）へ気軽に連絡してください。

「教室ガイド」の鮮度は各教室とTNVNとの“連絡メール”で保たれます。

さらに、使いやすい・見つけやすい・わかりやすい「教室ガイド」になるような皆さまのアイデアもお待ちしています。

今日も各地域で活動しているボランティア日本語教室と、日本語学習を希望する人たち、ボランティア活動を希望する人たちがつながりますように。

文責：岡田、山内  
協力：大滝、および問合せ回答担当者（在宅ボランティア）

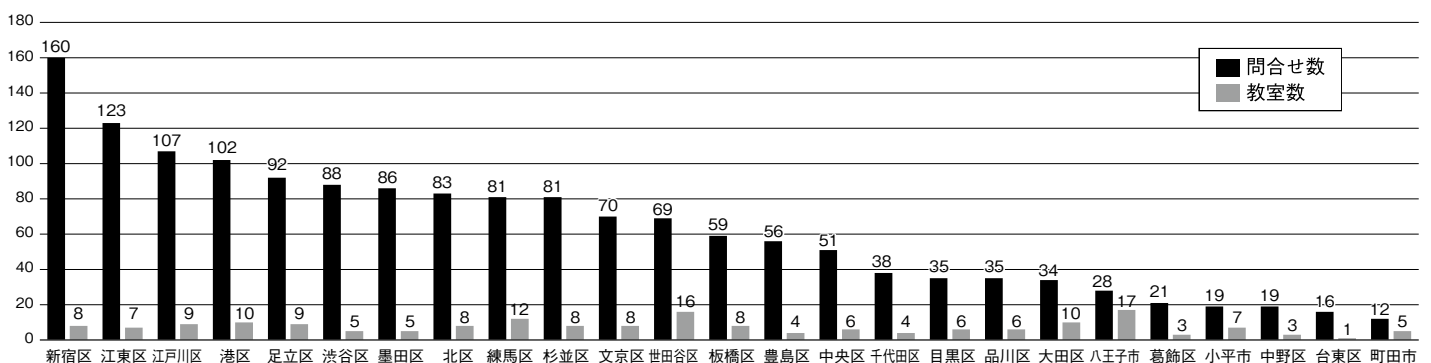


図 問合せの多い教室所在地域

# 日本語教師が持った「窓」

日本語教師 金子広幸



紙上講座

今号は、変わった切り口で新しい話題を書くことにしました。

2023年5月12日で、初めて日本語教師としてご活躍の方にお目にかかった日から40年が経ちました。私はその恩人のおかげでこの仕事を選び、ずっと続けることができました。大方は幸せを感じることの多かった、この40年でございました。日本社会において日本語教育に携わる者の世界はとても狭く、私自身もマイノリティーの一員だと考えています。この40年のうちの前半は、特に孤独を感じることの多い歳月でした。

そして、そんな孤独の道の果てに、途中からこの連載をお預かりすることになり、私は1つの「窓」を得た思いがあります。私は日本語教師で、そして、読者の皆様は地域の支援を支えている方々で、その立場の差はありつつも、共通するものが多いと信じ続け、拙文を綴り続けてきたわけですが、今号はその長い道を振り返りつつ、私が折々に心がけてきたことについて述べたいと考えました。思いを巡らせてみましょう。…私が

授業準備や学生対応で、どんなことをこころがけているか、なのですが、

- 待つこと
  - 集まっている全員が楽しくリラックスできるようにする
  - 学習者の自己実現がどこにあるか考える
  - 教えるよりも寄り添う
  - 日本語や他の言語の事象に敏感になる
- この5つでしょうか。

●「待つこと」。私はせっかちな父とのんびりしている母の間に生まれた子どもでした。江戸っ子の父は何でも私を早く早くと急かしました。ゆっくりでないと自分の満足いく結果が得られなかった私は、そのせっかちな父のもとでいつも焦りながら何かを学んできた気がします。

教師になって初めて意識したのは、この部分でした。私たちにとって日本語は母語ですから、もちろん「早く」できるわけですよね？でも学習者にとっては、ひらがな1つ、漢字1つ書くにしても、時間がかかるものです。文法や会話が不得意な学習者もいるので、その人たちができるようになるまで、辛抱強く「待つこと」を私は覚えました。思えば、私の父もそうやって待っていてくれたのかもしれないのですが、飛び抜けてのんびりしている私を相手に、どんなにかじれたことでしょうか。あれから50年、私はクラスの中でしっか

りと待つことを意識できるようになりました。

●「集まっている全員が楽しくリラックスできるようにする」。私が預かってきたクラスは、初級総合のクラスから、ビジネス日本語のクラス、大学院のクラスまで、たくさんの背景を持つ学習者がいるクラスでした。会社などからの委託クラスでは、その会社の指令に基づいてクラスが進むこともあり、先ほど述べた「待つこと」を実施していると、ミッションに添えなくなることもありました。中間管理職の立場を強く感じました。でも、いつもその指令に抗い、集まっている学習者が、できる限り楽しく参加できたり、リラックスして話すことができるように、幅広い活動を心がけてきたつもりです。

どんな背景を持つ学習者でも、この“楽しくリラックスできる”雰囲気

が成立していないと、土の中の種から、芽が出て、葉が広がり、育っていくことはできないと信じています。それはさらに広く見て、そういう職場環境でないと、私は自分の力が発揮できませんでした。カリキュラムがきっちり決まっている、ティーミングでバトンタッチしていかなければならない、また、そこがギスギスした人間関係であったりすると、それが学習者にも伝わり、成長を阻害してしまっているような時もありました。そして、抗えない自

分を責めて、とても辛い思いをした時代もありました。

だからこそ、今はその雰囲気の大切さが実感できます。もちろんスケジュールや成績はきちんと管理していますが、クラスの準備が終わった瞬間に「ちゃんと楽しく、リラックスできる雰囲気になるかな？」と振り返ることにしています。

●「学習者の自己実現がどこにあるか考える」。私たち日本人はなぜか100点を取ることがゴールだと思いがちですね。でも、同じ尺度で見ないことを、日本語教師になってから学びました。「僕は先月30点だったけど、今月53点になりましたよ！大きな進歩だと思います」と言われて、思わずハッとしたことがあったのです。私も100点がゴールだと信じていたのですね。もちろん親心、「100点でゴールを切ってね」と言いたい気持ちもあるんです。でもゴールはもともと学習者によって全然違うはずなのです。

遠い昔の高校時代、私は数学や物理学などがとても苦手で、100点満点で30点取れたらいい方でした。今思い返してもどうしても理解できないことがいっぱいあったのです。そんなある日、私に寄り添ってくれた先生方が、「かねこくん！今回のテストちゃんと55点取れていたよ」と知らせてくださったのです。55点で褒められるとは思ってもみませんでしたので、一瞬「は??」となりましたが、私が普段30点台だったことをご存じの先生が、カネコにとっては最大の努力であったことを見抜いていらしたんだと思います。事実、私はそのテストの1ヵ月前から自分でノートを作り、クラスメートのA君にも手伝ってもらっていたのです。(永井先生・橋本先生、A君、ありが

とうございます！)

日本語学習者も様々な背景を持っています。

「文法の体系を積み上げて学び、やがては大学などで、日本語を使ってアカデミックな内容を学ぶ」学習者だけではありません。

「子どもが小学校に入ったので、小学校の先生からお話を伺うときにわかるように、日本語を習いたい」と言う保護者もいますし、

「建築会社の技術者として勤めることになり、指示を理解して、同僚と仕事のやり方について、討論しなければならぬ」立場の人もいます。私たちは頭を柔らかくして、広く考えていかなければなりません。

そして、もう一つ頭を柔らかくしなければならぬことは、

●「教えるよりも寄り添う」ことです。クラスを持っている日本語教師や、地域で支援をされている方の中には、「教えなくちゃ」と力みすぎて、ほとんどしゃべりっぱなしになってしまっている人もいますね。私ももちろん普段からよくしゃべるタイプなので、クラスでそうならないように、いつも心に鍵をかけています。クラスに集まっている学習者は、自分から発信しなければならないのです。語学の学習ですからね。

私たちはあくまでも「ティーチャー(教授者)」ではなくて「ファシリテーター(促進者)」です。クラスで学んだことを無理なく、アウトプット(出力)できるよう、私たちには最大限の努力が必要なんです。

そして、5つ目はこの連載に多く掲載させてもらった内容に関連しますが、

●「日本語や他の言語の事象に敏感

になる」ことです。自分も日本語や外国語の使い手として、首をかしげたくなるような状況があったときには、放っておかないでよく考え、周りの仲間とも意見交換しつつ、自分なりの考えを持ち、いつ学習者から質問で“切り込まれても”しっかりと対応できるように、と意識しています。

・・・ずいぶんと偉そうに書きました。すみません。でも「窓」からいろいろ投げたり、叫んでみたりしました。

私は、この連載が、我々日本語教育者というマイノリティーの「窓」のような役割になってくれたらいいと考えています。また、戦争さなかの今の世界の情勢や日本という社会の外国人市民に対する姿勢、これからあるべき世界平和の姿まで思い、折々に意見を持ち続け、発信し続けていけたらとも思います。

日本全国、いえ、オンラインになってからは、世界中の人がここを読んでいて、たくさんの人に声をかけられ、ご支援をいただいたこと、本当に幸せなことだと思っています。これからもこの「窓」を大切にしていきたいと、思いを新たにしたいところです。





# 私の黄金の国 ミャンマー

テイテイルイン

北里大学准教授

私の国ミャンマーは、東南アジアの国の一つです。国は67万6552平方キロメートルで日本の約2倍です。ミャンマーの人口は5,114万です。ミャンマーと日本との時差は、2時間30分です。首都は長い間ヤンゴンでしたが、2006年からネピドーに移りました。ミャンマーは多民族国家であり、全人口の7割を占めるビルマ族のほか、130余りの民族が住んでいます。共通語はミャンマー語です。ミャンマーには夏季、雨季、冬季（乾季）の3つの季節があり、一年中暑いです。でも、ミャンマー北部のカチン州最北部、東南アジア最高峰のカカボラジ山（5881m）には雪が見られます。

ミャンマーでは今も伝統的な衣装であるロンジーを毎日、着用しています。ロンジーは簡単に説明しますと一種の巻きスカートです。ミャンマーには子どもや女性たちに広く使われている天然の化粧品タナカがあります。日本の田中さんではありません。タナカの木を、水を少しかけながら専用の石で削って作るものです。日焼け止めとしても利用します。

ミャンマー語には子音を表す文字33個、母音7個×声調3種、介子音4種があり、基本文字は丸っぽい形です。日本人にミャンマー文字を見せると視力検査表と間違われそうです。

食事は日本と同じようにお米のご飯を毎日食べます。お米は日本のお米と違い、さらさ

らしています。ご飯といっしょにカレーを食べます。食べる肉は日本と同じですが、魚は主に川の魚をたくさん食べます。熱帯国である為、数多くの種類の果物が栽培されています。

人口の約90%は仏教徒です。ミャンマー人はとても信心深く、日常生活にも仏教の教えが深くかかっています。ミャンマーには一時出家と言って期間限定でお坊さんになる慣習があり、お坊さんになる儀式を得度式と言います。子供の時（5才から青年になるまで）、親が得度式を挙げなければならないです。

ミャンマーには何万とも言われるパゴダがありますが、私がお国自慢として思い浮かぶものは、2500年前に建てられた金色に光り輝いているヤンゴンのシュダゴンパゴダです。お釈迦様の8本の髪をパゴダのなかに奉納していると言われていています。ミャンマーの人々にとっては、一生に一度はお祈りや礼拝のため訪れたい場所です。生まれた曜日ごとに仏像が決められて、自分の生まれた曜日に参拝するのが習慣となっています。日本で血液型により性格や相性を見るように、ミャンマーでは生まれた曜日によって性格や相性を見ます。

次はチャイティーヨー山の頂上にあるゴンパゴダです。その頂上をなす巨大な岩壁の上にある巨大な黄金色の奇石の上に、高さ7mパゴダをつくったものです。あと少しで崖に落ちてしまいそうな岩が落ちないです。この岩は「ゴールデンロック」と言われています。



シュダゴンパゴダと私

パゴダ以外にも自然な所としてベンガル湾に面したガパリビーチがあります。ガパリビーチは白い砂浜が5キロ以上も続き、豊かなヤシの林と青い海のコントラストが美しい海岸です。2016年には「トリップ・アドバイザー」誌の「ベストアジアビーチ」で1位になった所です。その他にもチャンタービーチとグエサウンビーチと呼ばれる美しいビーチが二つあります。

ミャンマーは自然が豊かで、金色に輝きさびやかな寺院や遺跡巡りが楽しい人気の観光地です。笑顔で心がやさしい人々がたくさんいます。皆さん、ぜひミャンマーにお越しください。

nice to meet you

■人と人との繋がりを柱に

# 日本語教室「エコー」 (練馬区) へようこそ

代表/友田 文子

今回新たに東京日本語ボランティア・ネットワークに参加させていただき、私たちの日本語教室「エコー」を紹介したいと思います。

私たちの教室は練馬区の西側、西武池袋線石神井公園駅に近い区立男女共同参画センターで毎週土曜の夕方5時から8時まで開いています。子どもも大人も一緒に学ぶ教室です。子どもたちには、日本語指導といっても必ず学習支援が伴います。それでも一緒に悩むことで、苦手分野はそれに得意なボランティアをお願いして乗り越えています。現在は、海外とつながりのある小学生・中学生が8~9人、大人が2人ぐらい、よく来ています。今年初めには幼児連れの母子2組(フィリピン・

中国)がよく来ていて、親と子どもと一緒に学べる教室となっています。

「エコー」の前身は、練馬区の委託を受けた中国帰国者の支援団体「同歩会」が開いていた日本語教室です。戦後70年以上が過ぎて委託は終了し、2021年「同歩会」は教室を閉じました。それでも子どもだった卒業生はつながりを求めて集まって来ます。そこで同年、有志が立ち上げたのが日本語教室「エコー」なのです。その特徴は次の通りです。

- 「エコー」は、どこの国の人でも、子どもでも大人でも誰でも自由に学べます。
- 生徒さんには金銭的負担なしで、ボランティアで教室運営を支えています。



- 「エコー」の柱は「人と人との繋がり」です。ボランティアの方には毎週参加できなくても基本長く関わることで生徒たちとの関わりを大切にしてもらっています。日本語指導の専門家である必要はありません。以上のように通常の日本語教室とはかなり違っていると思いますが、どうかよろしく願いいたします。

会員団体紹介

# Nice to Meet You

私ども「豊洲にほんごサークル」は、今年1月に有資格者6人でスタートさせた新しい有償ボランティア日本語教室です。

(祝日及び夏・冬・春休みを除き)、毎週水曜日と金曜日、10~12時に活動しています。会場は東京メトロ有楽町線/新交通ゆりかもめの豊洲駅前にある江東区シビックセンターです。

現在、教師7名で初級から上級の6クラスを運営しており、中国・韓国・アメリカ・ウクライナ・台湾等、様々な国籍の方20名程が、和気あいあいとした雰囲気の下、日本語の勉強に励んでいます。

教科書はアスク社のTRY! シリーズ(スタート・N5・N4・N3・N2・N1)を使用しており、日本語能力試験

nice to meet you

■地域に開かれた日本語教室を

# 豊洲にほんごサークル (江東区)

代表/渡辺 哲夫

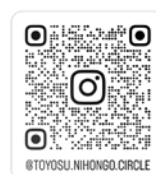
(JLPT) 受験にも対応しています。また、地域に開かれた日本語教室を目指しており、他の方の迷惑にならない限り、お子様連れでの授業参加もOKとする方向で検討しています。

どなたでも、いつからでも、合流可能で、且つ初回は無料となっておりますので、興味のある方がいらっしゃいましたら、お試しでご参加いただければと思います。

コロナ禍も一段落し、今後は外国からの転入者も増加が見込まれます。その中には、日本語学校に毎日通うのは躊躇われるが、空き時間に日本語を学んでみたいという方も大勢いらっしゃると思います。そうした方のニーズに応えていくことができるよう、東京日



本語ボランティア・ネットワークの皆さまと共に、私どもも微力ながら力を尽くす所存でございますので、何卒よろしくお願い致します。





東京日本語ボランティア・ネットワーク(TNVN)は都内のボランティア日本語教室のネットワークで、会員からいただく会費で運営している民間の団体です。会員は日本語学習支援活動を通して、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人を、隣人として支援しています。又、TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

### 東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

#### ◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えします。メールでお問合せください。

\*対面でのご相談にもお応えします。ご希望の方は、以下メールでご予約の上、おいください。

日時：毎週金曜日午後2時～4時  
(祭日休み)

場所：東京ボランティア・市民活動センター  
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線)出口B2b)  
飯田橋駅下車  
セントラルプラザビル 10Fロビー

#### ◆郵送先

〒162-0823  
東京都新宿区神楽河岸1-1  
東京ボランティア・市民活動センター  
メールボックス No.4

#### ◆E-mail : office@tnvn.jp

#### ◆URL : <https://www.tnvn.jp/>

#### ◆郵便払込

口座番号：00100-1-719259  
加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

#### ◆会員数 (2023年7月14日現在)

正会員：85団体  
協力会員：15名  
賛助会員：4団体

#### ◆編集 / 大野 敏宏、岡田 美奈子、小野 美恵子、仁村 謙子、林川 玲子、山内 眞理、渡辺 紀子

#### ◆レイアウト / 美巧社

#### 「感想を是非、お寄せ下さい」

<https://forms.gle/vG1CEm9wcKgN5CUXA>



119号アンケート ▶

### ●第30回定期総会報告

2023年5月21日(日) 11:10~12:10 Zoomを使って、第30回定期総会を開催しました。現正会員84団体中、当日出席17団体、委任状34団体で、合計51団体となり、会員の過半数となりましたので、規約7条3項の規定により、総会は成立し、議案は全て承認されました。

ご協力、ありがとうございました。2023年度もよろしくお願いたします。

総会に先立ち、当日10:00~11:00に、武蔵野大学教授 神吉宇一氏にお願いし、講演会をいたしました。(詳細は1ページをご覧ください。)

### ●2023年度役員・運営委員・スタッフ

#### ◎役員

代表 林川 玲子 ビバ日本語教室(港区)  
副代表 神 歩 グッドナイト日本語教室(江東区)  
山形美保子 LTC友の会(杉並区)  
事務局長 鈴木 恵司 スペース・アイ(渋谷区) 新任  
会計 矢崎 理恵 社会福祉法人さぼうと21(品川区)  
岡田美奈子 やさしい日本語(江東区)  
監査 山内 眞理 多摩市国際交流センター日本語セミナー部(多摩市)

#### ◎運営委員

大野 敏宏 すみだにほんごボランティア21(墨田区)  
小野美恵子 グッドナイト日本語教室(江東区)  
片岡 典子 にほんごクラブ・ゆう(江戸川区) 新任  
坂本 弘一 かけはし(足立区)  
天坊 千明 にほんご学習すぎなみの会(杉並区) 新任  
中村三千子 ちよだ日本語カフェ「Swan」(千代田区) 新任  
中山眞理子 NPO法人多文化こども自立支援センター(中野区)  
仁村 儀子 NPO法人IWC国際市民の会(品川区)  
渡辺 紀子 まちだ地域国際交流協会(町田市)  
佐久間征守 協会会員 新任

#### ◎スタッフ

大滝 敦史 在宅 HP管理  
小林 薫 日本語サークル「わかば」(世田谷区)  
松川 彩子 やさしい日本語(江東区)

### column

### 「ふりかえれば」

九十歳になりました。専業主婦を卒業した六十歳、区主催の日本語ボランティア養成講座を受講して、日本語ボランティアをはじめ三十年。いろいろな苦労もありましたが、ふり返って見ると、有意義な楽しい三十年でした。コロナのせいもありましたが、最近生徒さんの数も少なく、少しさびしいですが、ほそぼそながら続けています。

夜の教室は休講しましたが、土曜日午後の教室は、楽しみながら続けています。会話だけでなく、困った事があれば土曜日午後に聞ける!!のは心強い事と考えています。色々な事に対応するため勉強しましたので、私も博学な人になったと思います。

長い間、教室に来ている若いパパ(生徒さん)が、私の後を引きついでくださる約束です。もしもの時は安心して教室をおまかせ出来ます。

六十五歳になり、国民年金をいただく事になり、これを使えば会計は大丈夫!!と受講料は無料でつづけました。好評だった年二回の区の調理室を借りてのパーティーの室料も負担しました。でも教室の室料は社会福祉協議会の会議室だったので無料で、恵まれていました。色々な幸運がかさなり、三十年も続けてこれた!!と感謝しています。

跡継ぎもいます。地域で日本語を必要とする人のお役に立っていけると信じています。(小川伶子)